

主題：神の奥義の執事

メッセージ 23

金の燭台また神の贖われた者全体としての召会

聖書：啓 1:11-12, 20. 7:9-17

I. 金の燭台としての召会は、性質が神聖であり、暗やみの中で輝き、互いに同一です——啓 1:11-12, 20：

- A. 出エジプト記第 25 章の金の燭台は、神の具体化としてのキリストを表徴します (31-40 節)。ゼカリヤ書第 4 章の金の燭台は、キリストの実際としての七倍に強化された霊を表徴します (2, 6, 10 節. 啓 5:6)。啓示録第 1 章の燭台としての召会は、その霊の複写です (11-12, 20 節)。ですから、わたしたちは言うことができます、「霊がなければ召会はない。さらに霊があればさらに召会がある」(参照、2:7, 17. 3:20)。
- B. 燭台の七つのともし火は、エホバの七つの目としての神の七つの霊 (ゼカリヤ 4:10)、贖う小羊の七つの目 (啓 5:6)、建造する石の七つの目であり (ゼカリヤ 3:9)、三一の神の満ち満ちた表現のためです。
- C. わたしたちは内側に二つのともし火を持っています。それは、わたしたちの霊の内側の七倍に強化された神の霊です。わたしたちは造り変えられるために、祈りの中で完全に主に開き、主のともし火と七つの火のともし火に、わたしたちの魂のすべての部屋を探らせ、わたしたちの内なる各部分を照らし輝かせるようにし、それらに命を供給するにしなければなりません——箴 20:27. 啓 4:5. I コリント 6:17。
- D. イエスの証し、イエスの団体の表現としての金の燭台を経験するために (使徒 9:4-5. I コリント 12:12)、わたしたちは絶えず主イエスの御名を呼び求めることによって (I コリント 12:13. ローマ 10:12-13. 哀 3:55-56)、イエスの霊で満たされ (使徒 16:7)、兄弟たち、またイエスにある患難と王国と忍耐とに共にあずかっている者として (啓 1:9-10)、イエスの焼き印を帯びなければなりません (ガラテヤ 6:17)。
- E. 金を打って台を形成することは、信者たちがキリストの苦難にあずかることを表徴します。わたしたちの環境の中で進行するあらゆることは、打たれた燭台を生み出すためです——出 25:31. コロサイ 1:24. II コリント 1:2-3, 8-9. 4:16-18。
- F. 金の燭台の七つのともし火の輝き、火の炎のような七つの目でその中を歩く主イエス、輝く青銅のような彼の足、太陽のような彼の御顔の輝きは、わたしたちが日常生活と召会生活で日ごとにますます主の輝きを必要とし、それは彼の牧養、すなわち、ますます救い、復興し、生かし、神化するためであることを示します——啓 1:14 後半-15 前半, 16 後半. 4:5. 5:6. ルカ 1:78-79. II コリント 4:6-7. マラキ 4:2. 箴 4:18. 詩第 22 篇, 主題. 80:1, 3, 7, 15-19。

II. 宮で神に仕える大群衆、神の贖われた者全体は、天に携え上げられて、神の顧みと小羊の牧養を享受します——啓 7:9-17：

- A. 大群衆は、あらゆる国民、部族、民族、言語の中から小羊の血で買われた者たちから成り、召会の構成要素となります——9 節前半. 5:9. ローマ 11:25. 使徒 15:14, 19. I コリント 6:19-20。
- B. 「これらは大きな患難から出て来た人たちであって、彼らの衣服を小羊の血で洗い、白くしたのである」——啓 7:14：
 - 1. この大きな患難は、神の贖われた人が各時代にわたって経験した患難、迫害、苦難を指しています——ヨハネ 16:33。
 - 2. 小羊の血は、わたしたちに対する悪魔のすべての訴えに答え、彼に対する勝利をわたしたちに与えます——啓 12:11. ゼカリヤ 13:1. ヨハネ 19:34。

3. わたしたちの衣服を洗うとは、小羊の血の洗いによってわたしたちの振る舞いを清く保つことです。これはわたしたちに、命の木を享受し、神の永遠の祝福の領域としての命の都に入る権利を与えます—— I ヨハネ 1:7. 啓 22:14。
- C. 大群衆は、しゅろの枝を手にして、御座と小羊の前に立っています—— 7:9 後半：
1. しゅろの枝は、わたしたちが主のために経過してきた患難に対する勝利を表徴します。それはまた、水が注がれることによって得られる満足のしるしです—— 14 節. 参照、ヨハネ 12:13. 出 15:27。
 2. 神の宮としての三一の神の中で、わたしたちは昼も夜も彼に仕え、永遠の仮庵の祭りとしての彼を享受し、しゅろの木のように繁茂します——啓 7:15 前半. 3:12. レビ 23:40. ネヘミヤ 8:15. 詩 92:12-13. ローマ 1:9. コロサイ 2:19。
 3. 今日、時間におけるわたしたちの奉仕は、永遠におけるわたしたちの奉仕の準備です。時間における神の唯一の目標は、日ごとにご自身をわたしたちの中へと分与することです。神がわたしたちの中に入って来てわたしたちから出て来るとき、それが奉仕です——マタイ 25:19-23. ヨハネ 7:37-39。
- D. わたしたちははもはや飢えることも渴くこともありません——啓 7:16 前半：
1. 飢え渴くとは、望みを持ち、しかも満足しないことです。キリストは、彼の中へと信じる者がすべて満足し、彼らの満足させる命としての彼を受けることを約束しています——ヨハネ 6:35。
 2. わたしたちの霊の中の霊なる神と接触することは、生ける水から飲むことであり、生ける水から飲むことは、真の礼拝を神にささげることです—— 4:13-14, 23-24。
- E. 打つ太陽と灼熱は、わたしたちを打つことはありません——啓 7:16 後半：
1. 御座に座す小羊・神はわたしたちの上に幕屋を張り、ご自身をもってわたしたちを覆います—— 15 節後半. II コリント 12:9。
 2. 神のおおいの下にある一種類の命があります。それは神の中に隠されている命です——詩 36:7-9. エペソ 6:17 前半. 詩 91:1. 17:8. 57:1. ルツ 2:12。
 3. エホバとしての、また人としてのキリストは、神の民を供給し、顧み、覆っている王です。彼は支配するための王であり、風を避ける避け所、暴風を避けるおおいのようになり、乾いた所にある水の流れのように、荒廃した地にある大きな岩の影のようになる人です——イザヤ 32:1-2。
- F. 御座の中央にいる小羊はわたしたちを牧養し、命の水の泉に導きます——啓 7:17 前半：
1. キリストの牧養の下で、「わたしには欠けるものはありません」——詩 23:1。
 2. わたしたちは決して自分を改善することはできません。わたしたちは、絶えずわたしたちを養う牧者を必要とします。彼は神の小羊としての彼の経験をもって、小羊たちを養います。神の小羊は神の家の中で、神の家のために、神の御座にいます—— 2-6 節. 啓 22:1。
- G. 神はわたしたちの目から、涙をことごとくぬぐい取ってください—— 7:17 後半：
1. 涙はこの時代に避けられませんが、わたしたちの涙は神の瓶に入れられ、彼の書に記録されます——ヘブル 5:7. 使徒 20:19, 31. 詩 56:8. 参照、マラキ 3:16。
 2. 小羊はわたしたちに命の水を供給して満足させるので、涙の水はぬぐい取られます——エレミヤ 9:1. 2:13. 参照、15:16. 哀 3:21-25, 55-56。
 3. 神に感謝します。悲しみの日々と悲しみの事物は持続しません。この世は過ぎ去り、わたしたちは祝福されて、流れる三一の神から飲み、永遠の命の集大成、すなわち新エルサレムとなるに至ります——ヨハネ 4:14 後半。